

上 京

史蹟と文化

本山妙覚寺

美を巡る

北村美術館（上京区河原町通今出川下ル一筋目東入）

「数寄」という言葉がある。「すき」と読み、「好き」の当て字として用いられる。それを本業とはせずに何らかの風流にたずさわる様をいい、そのような人物を「数寄者」と呼ぶ。古くは和歌や連歌を好む者を指したが、安土桃山時代に侘び茶が流行してからは茶人を称する言葉となった。

特に明治30年代、20世紀を迎えた頃から、政財界の富裕層や官界の要人で、茶の湯をたしなむだけではなく、日本美術に造詣が深く名物道具の収集に打ち込む人たちが増え、その豊かで豪華な様が安土桃山時代の数寄者に似ることから「近代数寄者」と呼ばれるようになった。第一の代表者が三井物産の創始者益田孝（号は鈍翁、1848～1938）で、国宝や重要文化財を含む数々の美術工芸品を収集し、これを愛でながら再三大茶会を催したことが記録に残る。また阪急東宝グループなどの創始者小林一三（逸翁、1873～1957）や、野村證券などを創設した二代目野村徳七（1878～1945）など多くの数寄者は、収集品を逸翁美術館（大阪府池田市）、野村美術館（京都市左京区）という美術館の形で遺している。

北村美術館の創設者である北村謹次郎（1904～91）はまさにそうした「近代数寄者」の一人。奈良県吉野郡上市町（現・吉野町）に、日本の山林王といわれた北村又左衛門（1873～1928）の次男

として生まれ、金沢の四高を経て京都帝国大学を卒業後、家業の林業を営むと共に、幼少から親しんだ茶道や美術品の収集に励んだ。

謹次郎は表千家13代家元即中斎（1901～79）と同世代で親交も深く、自らも秀でた茶人であつただけに茶碗や茶器、掛け軸などを見る眼は厳しく、「綺麗寂びで堂上風な好み」と評された。佐竹本三十六歌仙「紙本墨画藤原仲文像」、高麗「牡丹唐草文螺鈿経箱」、蘭溪道隆墨蹟「再留前堂首座上堂語」附・古田織部消息、与謝蕪村筆「紙本墨画淡彩鶯鴉図双幅」、益田鈍翁旧蔵「織部松皮菱形手鉢」など、生涯を通じた収集品は重要文化財34点、重要美術品9点を含む1000点近くを数える。

謹次郎は1936（昭和11）年に大阪の藤田男爵家から鴨川西岸に面した約600坪を入手した。北山から比叡山、東山を望み、賀茂川と高野川が合流、江戸後期の漢詩人頼山陽（1780～1832）が「山紫に水明らかな處」と讃えた景勝の地で、京数寄屋作りの名人棟梁北村捨次郎（1904～91）に茶室と住まい（旧邸の母屋）を建てさせ、「四君子苑」と名付けた。四君子とは、中国に菊の高貴、竹の剛直、梅の清冽、蘭の芳香を讃える風習があり、菊、竹、梅、蘭の頭の文字が「きたむら」と読めることから、その品格風格にあやかれることを願って命名したのだった。

ところが当時は第2次世界大戦の真っ最中。謹次郎は44（昭和19）年に5年間を費やして完成した数寄屋造りの住まいに入居したものの、翌年に日本が敗戦したため、進駐軍に接収、改造される被害を受けてしまった。「母屋にペンキが塗られ、靴で踏みにじられたそうです」と美術館事務長の杉林克己氏は謹次郎の無念さに思いを馳せる。

やがて進駐軍は撤退、謹次郎の好み、美意識を十分に盛り込んで、63（昭和38）年に母屋が近代数寄屋建築の第一人者吉田五十八の設計

により建て替えられ、庭園は佐野越守^{えつしゅ}が集めた石造美術品や樹木によって現在の姿に生まれ変わった。謹次郎は家族と共にここに住まいとして満ち足りた日々を過ごすことが出来た。そればかりではない。逸翁美術館や野村美術館などはオーナーの遺志を伝えるために開館したので対して、北村美術館は謹次郎が存命中に完成、自らが収集した名品を、自ら選び抜いて展示することが出来た。それらに見入る参観者の姿にうれしさを隠しきれなかったことだろう。

現在の北村美術館。通りに面した長屋門形式の表門から入った左手を稲穂垣に沿って進めば母屋の表玄関。右手が茶室への露地庭で、観音正寺の「三重石塔」や重要文化財の鴻池家伝来「六角形石灯籠（嘉禎3＝1237年）銘」などを見ながら進むと、母屋と茶室を結ぶ渡り廊下があり、目前に池泉庭園が広がる。その池に茶室が張り出し、「珍散蓮^{ちんさんれん}」と呼ぶ小間が客を待つ。広縁の開口部は大小に区切られ池泉庭園をさまざまな形に見せてくれる。春には桜が咲き誇り、邸内北東に根を張る樹齢550年の「巨椋^{むく}」や重要文化財の宝篋印塔^{ほうくやくいんとう}「鶴の塔」も見逃せない。こうした約60点の石造美術品の全ては謹次郎が吟



四君子苑



表玄関

味したものであった。

小間の奥は一段高くなっており、「看大^{かんだい}」と名付けられた、鴨川、東山の峰々を望む広間に出る。絞り丸太の床柱、欄間の桑、雪見障子の腰板の杉など素材の美しさに魅せられながら床の前に座れば、真正面に「大」の文字が横たわる。

かつて送り火の夜には、表千家の宗匠を招いた精霊送りが催されたことがあった。その思い出を「大の字が点されると、軒端でその字を水指の水に映します。その水をいただと疫病のがれのおまじないになると昔からいわれているからです。点^たておえると初服は経机の上に供茶し、大の字に向つて一同合掌します」と館長の木下收氏は「茶の湯 心と美」に記している。

千宗旦に「愚者千人に讃められんよりも数寄者一人に笑はれん事を恥ずべし」という言葉が残る。この意は「センスや感性による芸術や芸道など、本物を見分ける目をもった人はそう多くはない。一人でも鋭い視線を常に意識していたら、感性はより磨かれていくに違いない」ということだが、まさに謹次郎に当てはまるといえよう。（福井 和雄）

【北村美術館】

実業家であり茶人でもあった北村謹次郎が生涯をかけて収集した茶道具・美術品などを保存するため1975（昭和50）年に財団法人北村文化財団が設立され、京都に於ける茶道美術館の魁として77（昭和52）年6月に開館した。現館長は木下收氏。

毎年春と秋の2回に、季節にふさわしいテーマを決めて企画展を開催しており、2022（令和4）年春季取合展「蒼天」を3月5日から6月12日まで開催、四君子苑（茶室と庭園）を4月12日から17日まで公開を予定している。

上京の埋蔵文化財

― 幻の京都新城の遺構発見 ―

はじめに

2019（令和元）年秋から翌年春まで、京都御苑内の京都仙洞御所内で消火設備の建設に伴う事前の発掘調査を公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が実施しました。今回はその調査で新しい発見があったのでご説明します。

調査地の歴史

この地は、平安京左京一条四坊十町跡及び公家町遺跡にあたります。公家町遺跡は、豊臣秀吉により現在の京都御所周辺に公家衆を集住させて公家屋敷街を形成したことにあります。

調査地である仙洞御所は、現在の京都御苑内の東部に位置します。1627（寛永4）年に譲位

し上皇となった後水尾上皇のために徳川幕府によって造営されたことに始まります。さらに当地は豊臣秀吉が1597（慶長2）年に造営した京都新城の推定地にあたっており、仙洞御所はその跡地を利用したものです。

調査の経過

発掘調査は、地表下約0.2mにある明治時代の遺構面を明らかにすることから開始しました。記録を取りながら順次掘り下げていき、1627（寛永4）年以降の仙洞御所造営時の整地層^{注1}の下層で、南北方向の石垣と堀を発見しました。堀の埋土と整地層からは、屋根瓦の一部を金箔で装飾した金箔瓦が出土しています。

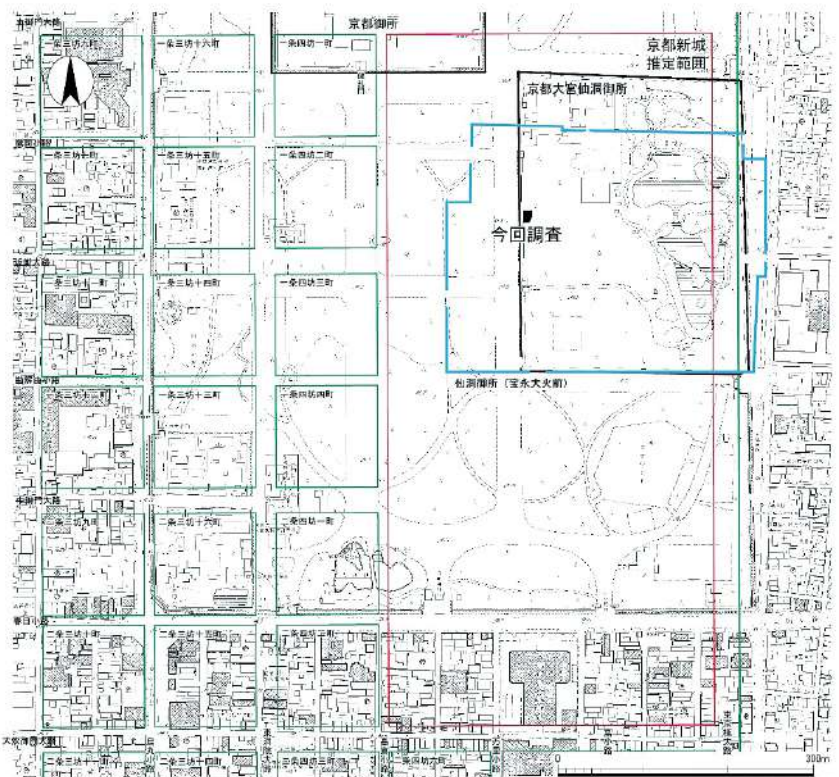


図1 調査位置図（1：6,000）※緑は平安京の街区

石垣は地表下約2.3mの深さにあり、東側に面を揃えた南北方向の石垣を長さ約8mにわたって検出しました。この石垣は、南北方向の堀の西肩にあたり、南北両側ともに調査区の外側へと続いていき

ます。石垣は自然石の巨石を用いて野面積み^{注2}となっています。石垣本体を構築する築石は3〜4段あり、遺存する高さは1.0〜1.6mです。ただし、上部は崩れており、さらに2段程度の築石が積み

図1 調査位置図



図2 調査区全域（南東から）



図3 石垣（北東から）

れ、復元すると高さは2.3m程とみられます。築石の石材は、花崗岩・石英斑岩・チャートの3種類が使用されています。大きさは、全体として大小2種類に分かれ、

大きいものは長さ0.8～1.1m、小さいものは0.5～0.6mです。さらに、石垣は自然石を用いながらもよく面を整えており、肩のラインもしつかり直線に揃えられています。この石垣は全体として非常に高度な技術が用いられ、さらに丁寧に仕上げられていることが分かります。

堀の規模は南北12m以上、成立面^{注3}から底部まで深さ約2.3m、東西幅は5m以上あります。堀内には、石垣を壊した際に落とされた築石が点在しており、なかには石を割る際に穿たれる矢穴^{うが}があるものが1石確認できました。

金箔瓦は、堀や整地層から8点出土しました。軒丸瓦・軒平瓦・飾り瓦などですが、軒丸瓦4点中の1点は菊花文、3点は五七桐文といった豊臣家ゆかりの家紋瓦でした。分析を行った結果、出土した金箔瓦に使用された金箔の金純度は95.0%と高いことが判明しました。金箔瓦は、豊臣家関係

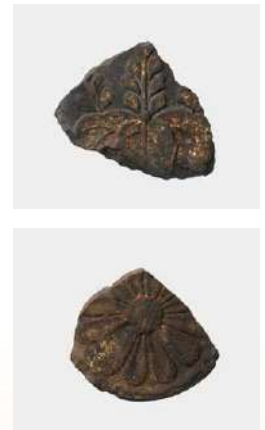


図4 瓦

の城郭にのみ用いられる事から、この堀と石垣は、豊臣家に関係の深い施設に伴うものであったことが分かります。

発見した石垣と京都市

後水尾上皇の仙洞御所は、1627（寛永4）年に高台院（豊臣秀吉の妻・北政所）の屋敷の跡地に造営されており、また、高台院の屋敷は秀吉の造営した京都市新城を利用してものである事が文献などによって知られています。京都新城は、1597（慶長2）年に秀吉によって築城されました。当初は太閤御屋敷・太閤御所・太閤上京屋敷などと呼ばれており、やがて新城・秀頼御城・京の城と呼ばれました。「北土御門通ヨリ

お葬式 家族葬 公益社

北ブライツホール [堀川紫明]
中央ブライツホール [五条東山]
南ブライツホール [油小路八条]
西ブライツホール [五条西大路]

山科ブライツホール [五条外環]
伏見ブライツホール [丹波橋新堀川北]
向島宇治ブライツホール [宇治槇島]
大津ブライツホール [大津駅南]

家族葬専用
別邸 向島宇治 [宇治槇島]

家族葬専用
別邸 大津 [大津駅南]

0120-004-200

24時間365日対応、無料相談

京都 公益社

検索



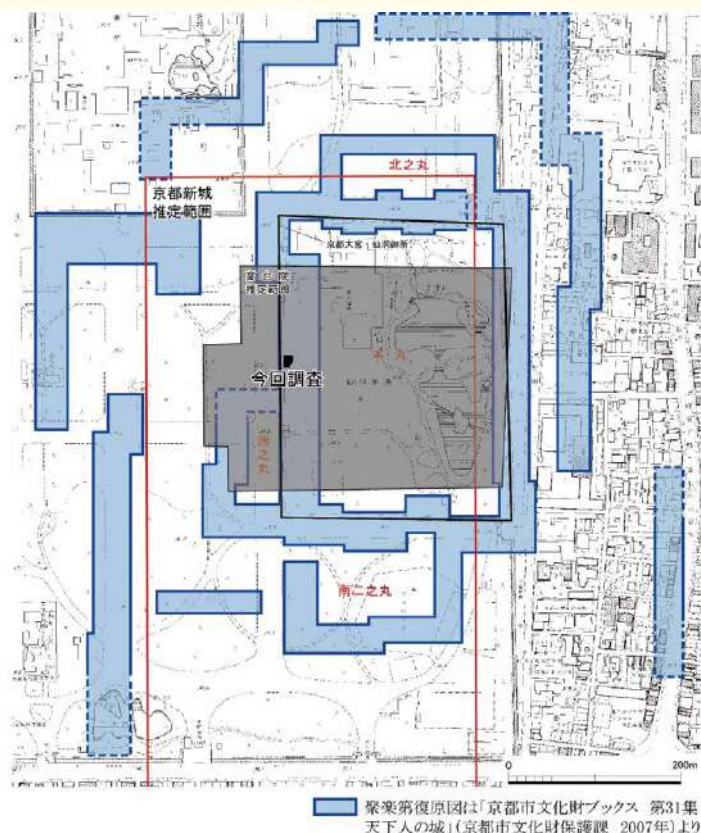


図5 聚楽第と京都新城・仙洞御所と規模比較

南へ六町、東へ八京極ヨリ西へ三町」
『言経卿記』という東西約400m、南北約850mに及ぶ広大な敷地を有していました。同年9月には、秀吉・秀頼とも京都新城に移っています。1598(慶長3)年8月、秀吉が死去すると、京都新城は大坂城から移った北政所の邸宅となりました。1624(寛

永元)年に北政所が亡くなるまで、その居所として利用されています。堀内の転落石に施された矢穴の縦断面形状は、丸底・船底状を呈する「古Aタイプ」に分類されます。このタイプは1592(文禄元)年から1600(慶長5)年までの時期と推定されることも京都新城を裏付けています。

京都新城築城以前の豊臣家の京都における拠点であった聚楽第に關しては、近年の研究でその平面形状がほぼ確定しています。寺町通りを東端の定点として、その復元図を現況図に重ねてみると、今回の石垣は本丸西堀の西側石垣であった可能性が考えられます。

堀の延長及び規模を推定するために実施した「高精度表面波探査」のデータ解析から、堀の東西幅は約20m、南北延長は150m以上と推定され、大規模な堀であることが推測されます。

今回の石垣の発見によって、初めて京都新城の一部が確認されたことになり、その実態解明に向けての大きな定点を得たことになりました。1595(文禄4)年に聚楽第を破却した後、京都における豊臣政権の拠点として京都新城が造営されたと考えられ、秀吉晩年の政権構想の再評価にも繋がる可能性があります。

京都新城の遺構を確認したこと

を受けて、宮内庁と京都市文化財保護課は保存協議を行い、その結果、宮内庁は消火設備の建設予定地を変更することになり、石垣と堀は埋め戻され保存されています。

(公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所
小檜山一良)

注1 仙洞御所を造営するために盛土して地ならした土層。
注2 自然石を加工せず積み上げるもの。
注3 堀が作られた当時の地表面。

◆お知らせ

京都新城跡の発掘調査で出土した金箔瓦を3月11日から上京区総合庁舎2階で展示させていただきます。この金箔瓦は、近年発掘調査で出土した特に注目された遺物を展示する文化庁他主催の『発掘された日本列島2021』展に出品され東京都江戸東京博物館・苦小牧市美術博物館・群馬県立歴史博物館など全国を巡回して戻ってきました。いよいよ地元の皆様にお披露目です。

町名・地名は歴史のタイムカプセル ― 聚楽屋敷ゆかりの町名編 ① ―

京都産業大学 日本文化研究所

上席特別客員研究員 小嶋 一郎

今回は「上京の地名・町名」シリーズ第4弾となりますが、聚楽屋敷（聚楽第に勤めるため武將たちが構えた屋敷）を持った武將等をテーマに、現在に至るまで守られてきた町名について、ご案内します。また、取り上げたい町名が非常に多いため、今回と次の計2回に分けてお話を進めることにいたします。

★「高台院町」&

上長者町通裏門西入

「高台院堅町」中立売通裏門下ル
こうだいゐん

「高台院」とは、豊臣秀吉の正室、北政所（おね・ねね）のことです。秀吉の菩提を弔うため、康徳禪寺を高台寺として開いたため、そう呼ばれています。足輕時代から秀吉を支え続けた、「糟糠

の妻」です。「聚楽第」の時代には、まだ高台院と呼ばれていませんので、江戸時代以降に、町の人々が高台院の人柄を偲んで命名したのでしょう。現在の高台院町は、聚楽第の西の丸にあたると思われる長方形に、北に「北の丸」、南に「南の丸」、西に「西の丸」と、俯瞰すれば三方向に出丸がありました。その内の「西の丸」が北政所の居所であったのでしょう。その頃、秀吉には正室以外に、側室が複数いたはずですが、朝廷には後宮、江戸幕府には大奥という女の園があり、ひとつのエリアで生活していたのですが、おそらく秀吉は、正室と側室の住むエリアを分け、正室以外は別のエリアに住まわせてい

たと推測されます。秀吉自身は「西の丸」と「北の丸」のちょうど中間地点に屋敷を構えていたのではないのでしょうか。現在の町名でいいますと「神明町（松屋町通上長者町上ル）」の南辺り、或いは「山里町（智恵光院通上長者町上ル）」の東辺りかも知れません。やはり、北政所とは自邸とその間にある庭で散歩ができるようにしていたのではないのでしょうか。山里町・須浜町・須浜東町など、庭を思わせる町名が残っているのは、「西の丸」があつたエリアのすぐ東側です。忙しい政務の合間に、北政所との散歩を楽しんだ天下人の様子が偲ばれます。



高台院像（重文）高台寺所蔵

柔道圓心道場

〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内上ル下柳原北半町 210
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

山崎接骨院

〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西上ル相国寺西門前町 647
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051
<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>

新・古茶道美術品

清昌堂 やました

京都本店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366
FAX (075) 431-1370

<https://seishodo.com/>

お気軽にお問い合わせください



「吉野町」京菓子司「金谷正廣」



崇源院 (江) 像 養源院蔵

★「吉野町」黒門通下長者町下ル
聚楽第の「黒門」があつたとされる場所です。そして、その黒門を守るかのようにすぐそばに聚楽屋敷を構えていたのは、豊臣秀長であつたという説があります。秀吉の弟で、数々の戦陣に同行し、兄の指示のもと、功を上げ、紀州を統治した後は大和一国を任せられ、権大納言という官職から「大和大納言」と呼ばれました。家族思いで、家臣からも人望厚く千利休とも親交が深かつたということです。残念ながら、病で兄より先

に亡くなりましたが、もし秀長が生きていたならば、秀次や利休が切腹を命じられることもなく、また文禄・慶長の役もなかったのでは、という人もいる程、人格者だつたのでしょうか。町内の人々は、そんな秀長（大和大納言）に大和といえは、吉野、吉野の桜のように人々に好かれる人物を町名に冠したのかも知れません。ちなみに隣の「清元町」は以前「桜町」であつたという江戸時代の記録も残っています。吉野と桜、昔から日本人の好んできた組み合わせです。

★「弁天町」土屋町通水上ル
豊臣秀勝（秀吉の甥）の聚楽屋敷があつたとされる場所です。秀勝は、秀吉の姉（後の瑞龍院）の子で、秀次の兄にあたります。秀吉は秀勝を幼少の頃から可愛がり、元服してからは、合戦に同行させますが、残念ながら文禄・慶長の役で帰らぬ人となりました。秀勝は浅井三姉妹の「江」と結婚し、娘もいました。江は秀勝亡き後、秀吉の指図により、徳川秀忠の正室として江戸に輿入れします。また娘の完子は、九條家に養

女として出向き、公家として生涯を送ることになりました。波乱の人生を歩んだ江と完子、若くして散つた秀勝が、ほんの短い間、暮らしたのが聚楽屋敷であつたといわれています。秀勝と江、そして完子が仲睦まじく暮らした短い年月も、きっと宝のような思い出となつたことでしょう。肝心の「弁天町」の由来ですが、江の実家、浅井

歴史文字シリーズ

紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御霊前上ル TEL.075-441-5408代

E-mail:info@wako-print.co.jp

★「主計町」東堀川通一条下ル
加藤主計頭清正の聚楽屋敷が家が信仰していた「竹生島弁財天」に因んでいるのではないのでしょうか。屋敷神として、邸内に弁財天を祀る祠を建てていた可能性は十分にあり得ます。或いは町内に昔から「梅雨の井」のような名水が湧き、はたまた堀が存在し、その水を守護するために祀つた弁財天が由来になっているのかもしれない。

あったという伝えから、命名されたようです。

加藤清正といえ、豊臣秀吉の親戚筋にあたり、秀吉が出世街道を走って行く際の合戦では、槍働きで以て、天下統一に尽力したとされています。しかし文禄・慶長の外地での長期戦では、緒戦に勝利を積み上げたものの、やがて持久戦の様相を呈し、兵糧不足の飢えや渇き、気温の寒暖差に悩まされ、疲労困憊の末、内地に戻ったとされています。伏見城が大地震で倒壊した時も、甲冑姿で、いの



一条戻橋と「主計町」

一番に太閤秀吉の下に馳せ参じたエピソードや、虎退治の武勇伝でも有名です。そんな武勇を誇る加藤清正も屋敷の場所にもこだわり、聚楽第の鬼門を守ることを示したのではないのでしょうか。

★「福島町」

千本通下長者町下ル

加藤清正が聚楽第の東を守るなら、福島正則は西を固める、といわんばかりの位置といえます。まさに「前門の虎、後門の狼」さながらです。太閤もさぞ心強かったことでしょう。ドラマや映画などを見ていると、秀吉がまだ足軽大将の頃、腕っぷしの強そうな少年が、「市！（福島正則）」「虎！（加藤清正）」と秀吉や妻のねねから、声を掛けられるシーンをよく見ます。秀吉の天下取りを、武勇で以って支えたツートップといってよい存在です。秀吉とともに天下取りを夢見た少年は、秀吉亡き後、やがて官僚体制を敷く石田三成一派



福島正則肖像画
(国立国会図書館ウェブサイトより)

（五奉行）を蛇蝎の如く嫌い、関ヶ原の合戦では三成達に豊臣の世は任せられないとして、東軍（徳川方）に与します。しかも合戦の一番槍で、徳川四天王の井伊勢を出し抜き、家康の感状に預かったともいわれています。褒美として安芸三十万国を与えられますが、やがて幕府の許可なく城の改築をしたという罪（武家諸法度違反）で減封の憂き目に遭いました。

★「如水町 & 小寺町」

猪熊通一条一帯

「如水」は「じよすい」と発音したいところですが、なぜか町名は「によすい」と発音するそうで

す。名前どおり、黒田官兵衛孝高の聚楽屋敷があったとされることから、名づけられたようです。「如水」というのは、官兵衛が隠居後に使った号です。天下人秀吉から、その才能が高く評価されると共に、警戒されることを憂えた官兵衛は、家督を嫡子の長政に譲り、隠居宣言をします。しかし官兵衛は隠居後も、豊臣政権の行く末を見守りつつ、関ヶ原合戦の際には、九州北部を席卷し、その名を響かせています。また「小寺」というのは、官兵衛の父、黒田職隆が、主君であった小寺政職の養女を妻として迎えよという君命により、小寺姓となり、一時期官兵衛も「小寺」姓でしたが、やがて羽柴秀吉に仕える頃には、小寺家も没落していましたので、旧姓の黒田に戻したということです。



「如水町」
町名看板

新上京の昔ばなし

「新式郵便」始まる(2)

すべての人が低料金で

1871年4月20日(旧暦明治4年3月1日)に開始された日本の「新式郵便」。ローランド・ヒルによって1840(天保10)年5月、イギリスで近代郵便が創始されてから31年後のこと

前島密らが「すべての人が低料金で平等に利用できる」制度を大いに学び、我が国に取り入れたことは、彼の自叙伝「鴻爪痕」に詳しい。

その制度は、①政府専掌による低額な全国均一料金、②国内全域の郵便集配ネットワーク、③切手などによる料金前納、④利用の平

等性—の4点を兼ね備えたものだとして定義できる(※1)。



西京から大阪まで百文

新式郵便開始当日に、「龍文」と呼ばれる四十八文、百文、二百文、五百文の4額面の我が国最初の切手が発行された。左右2匹の龍が中央の額面を向かい合って挟み、雷紋と七宝の輪郭文様で周りを囲った図案で、目打(切取線)も裏糊もなく、三桎和紙に刷られている。1枚の大きさは横・縦ともに19・5ミリで、現行の普通切手の横18・5ミリ、縦22・5ミリより一回り小さく、横8×縦5の4枚で1シートを構成している。このうち四十八文は江戸時代の九六銭勘定(※2)の名残で、実は五十文を指した。郵便料金は西京から大阪まで5匁が百文、これを超える10匁までが百五十文と5割増しになるため、百文単位だ



龍百文1枚、龍二百文1枚、龍五百文5枚、計二千八百文貼書状(部分) 西京明治四年八月十三日出、西京検査済、消印、東京宛。(創業時の西京—東京間料金は十五匁まで千四百文だが、この書状は十五匁を超えたため2通分二千八百文の料金になっている。)

「ヨキモノ」を創る

京名物 柚餅



京菓匠 鶴屋吉信
http://www.tsuruyayoshinobu.jp

けでなく、補助単位の五十文が必要だったわけだ。

京の玄々堂が切手製造

これらの切手を製造したのが京都の銅版画家、2代目玄々堂松田敦朝(1837—1903)だった。父の初代玄々堂、松本保居(1786—1867)から銅版画を学び、東洞院仏光寺に居を構え、幕末までは名所図などを手がけていた。その作品は今でも京都の古

書市やネットオークションで時折見ることがある。

敦朝はその手腕を買われ、1868（明治元）年に太政官会計局（大蔵省の前身）の命を受けて二条城内に印刷所を設け、初の全国通用の政府紙幣である太政官札製造に携わった。その後、民部省から民部省札の製造を依頼され、大蔵省紙幣寮御用となつて工房揃つて東京に移住した。

太政官札（金札）、民部省札（銀冊）のいずれにも表面に「双龍」が描かれており、製造・印刷時期から考えても切手の図案はこれを参考にしたことに違いはない。

東京から西京へ72時間

様々な準備を経て迎えた4月20日（3月1日）、書状集箱から取り出して仕訳けた郵便物を携えた飛脚が姉小路車屋町西江入町旧金座跡の郵便司郵便役所から出発して、予定通り東京には72時間後に、大阪には7時間余後に到着した。初

めての郵便送達は無事成功したのだった。

その道筋は、東京へは郵便役所から門前通を南へ東洞院通を東へ三條通大津傳馬所から東海道を、大阪へは東洞院通を南へ伏見傳馬所から京街道を通ることと定められた。東京や大阪からの郵便物は当然その逆路で運ばれた。

郵便司は通達で、この道筋で飛脚が万一足痛あるいは突然の発病などにより、運送に支障が出たときは早速代わりの人足に引き継ぐよう、街道筋の宇治郡日岡村、葛野郡鹽（塩）小路村、紀伊郡東九条村など13村の庄屋・年寄に命じている（参考文献による）。

現存最古の書状は、1日に東京

を出発した飛脚が滋賀・水口で託

された大津宛の、料金の龍百文切手が貼られ、篆書体で「検査済」と書かれた大型の消印が押された

もので、東京在住の著名収集家のコレクションに収まっている。この篆書「検査済」印は、東海道路筋の木曾川から西京・大阪寄りの郵便取扱所で、東京寄りでは楷書「検査済」印が使われた。ところがこの表示ではどこから差し出されたか分からないため間もなく地名を入れた消印に改められた。

東京と西京との間はそれ以前から公用便だけでなく、民間の書状往来も盛んで、特に西陣や室町の旧家の蔵に眠っているものがあるのではと推測される。私はかつてある旧家の主に

「お宅にそういうものはないのか」と聞いたところ、「明治なんて、そんな新しいものは分らない」と

言われて、うなつたことがある。思い当たる方は一度調べてみてはどうだろうか。

辨ヨロシカラサル集箱

こうして書状に切手という見慣れない紙片を貼って差し出す「近代郵便」が始まったが、切手は郵便役所か番組小学校に行かなければ入手出来なかった。郵便役所といつても実際は、近隣の東洞院三條上ル町の京都府御用書林（現在の官報販売所のようなもの）第11代村上勘兵衛が役割を担った。

余談になるが、1913（大正2）年、村上勘兵衛が営業の全てを井上治作に譲渡、井上は社名を平楽寺書店として、現在でも後継者が同地で「出版物による仏教理念の啓蒙と普及」を理念に掲げ、出版事業を続けている。

郵便役所は1カ所だけ、正確には当時の郵便ポストである書状集箱は市中と伏水（伏見）を合わせて10カ所もなく、これは「数少な

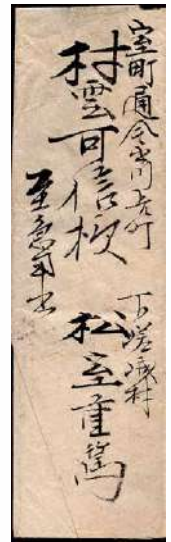


龍百文に篆書「西京検査済」が押された書状（裏面）。明治五年八月、上京区小川通上立売上ル御三軒町の書き込みがある。

ク衆人ノ辨ヨロシカラサル趣ニ相聞四民聲息」（利用者から余りにも少なすぎるとの声が出た）ので、わずか50日後の6月8日（4月21日）に「是迄差出有之書状集メ箱ト同様相心得書状差入レ可申候」（これまでの書状集箱と同様に書状を出せるように）として、室町今出川下ル西側、千本一條西南角、寺町丸太町下ル西側、二條室町東へ入北東角など、市中15カ所、伏水（伏見）2カ所に増設する「書状集箱ノ場取増」を通達した。

さらに同年7月（6月）には「郵便賃錢切手ノ儀小學校ニ於テ爲賣捌候處中ニハ日々他邦へ書状可致渡世柄モ有之居宅掛ケ隔候テハ買入方不都合ノ向モ有之哉ニ相聞候間猶又別紙箇所々々オイテモ切手爲賣捌候條勝手次第買入可申事」として、千本上立賣上ル作庵町村松甚兵衛、など75人の名を挙げてゐる。（※3）

それまで、といつても郵便創業から2、3カ月が経つかどうかの



下嵯峨村から室町通今出川上ル村雲可信宛
（私の曾祖父）書状の表面

わずかの期間だが、上・下京の番組小学校での切手売捌きは不都合があるため取り止め、新たに市中各所に変えることにしたのであった。早急な変更は、番組小学校での切手売捌きが失敗に終わったことを物語っているようだ。

金本位制の条例を採用

「新式郵便」開始から2カ月余後の同年6月27日（5月10日）には、明治新政府によって「新貨条例」が制定された。後に第8・17代内閣総理大臣を務めた、時の大蔵大輔（のち民部大輔・参議を兼任）大隈重信（1838—1922）の主導で、金本位制を採用、貨幣単位は両を廃して円（旧1両を新1円とする）として、十進法に基



書状の裏面、「桜」1銭に京都局の記号印「ター」が押されている

づき補助単位に銭（円の100分の1）、厘（銭の10分の1）を定めた。これを受けて72年1月（明治4年12月）から万延二分判・一分銀・寛永通寶・天保通寶などの旧貨幣と新銭貨との、翌年5月（明治5年4月）から旧藩札・太政官札・民部省札と新紙幣（明治通宝）との交換が開始された。

市内郵便は48文で配達

旧暦明治4年が年末に迫った12月5日、「郵便規則」が改正され、郵便路線は大阪からは大阪から長崎まで延長、郵便料金も郵便局間から距離制に変わった。重量は2匁（直後に4匁に変更）となり、宛先までの距離が25里まで百文、25里超〜50里が二百文、50里超〜

100里が三百文、100里超〜200里が四百文、200里超〜が五百文の5段階に分けられた。この時、東京、西京、大阪の各府内市内間の郵便は四十八文で配達されることになり、先に書いた四十八文切手が用いられた。またこの時に日誌や認可新聞などの低額送達制度も始まった。

1872年4月（明治5年2月）には新貨条例に伴って切手の額面が、四十八文は半銭、百文は壹銭、二百文は貳銭、五百文は五銭と、文から銭位に変更され、九六銭勘定は廃止された。「龍文」を「龍銭」に差替えただけで、額面を左右2匹の龍が挟み、雷紋と七宝の輪郭文様で周りを囲った図案はそのまま。用紙は再使用を防ぐため

に、四周に目打が入れられ、破れやすい用紙に刷られた。一部裏糊がつけられたものが存在する。

龍から桜に図案を変更

ここで再び登場するのが切手の製造を請け負っていた松田敦朝。目打を入れるには①シートの両端を一直線に植えた目打針（和櫛をイメージしてもらいたい）で横縦一列ずつ、②コの字型に植えた目打針で1段ずつ、③シート全てを一度に、打ち込む方法があるが、松田にはそうした知識がなく、当初は切手1枚に合わせた土台に10数本の目打針を植えて、1枚ずつ



明治期の郵便作業を描いた日本画家・柴田真哉の絵図「郵便取扱の図」（以下は2021年4月発行の「切手趣味週間・郵便創業150年」切手の1種）

手作業で打ち込むという作業を続けた。これは余りにも効率が悪かったので、やがて①に改良された。

ところで「龍文」切手も「龍銭」

切手にも国名や郵便料金前払い証紙であることを示す表示がなく、切手としての体裁を欠いていた。このため旧暦明治5年8月から算用数字の額面と、「郵便切手」と表示した新切手の発行が始まった。国名表示はなく十六花卉の菊花紋章が入られた。このシリーズは切手の四周に桜の花が描かれていることから「桜」切手と呼ばれている。

西陣局の誕生はまだ先

ここまでお読みいただいて、「『新上京の昔ばなし』なのに上京の話が出てこないのはどうして」と思われる方がいるだろうが、そのとおり。書状集箱や切手売捌き所を除けば、上京と「近代郵便」のかかわりは現在の西陣郵便局が1885（明治18）年7月16日、今出川通大宮西入ル元北小路町に

元北小路町郵便支局として開設され、同年8月1日、今出川支局に改称するとともに為替・貯金の取扱も開始してからのこと。

上京区の郵便局についてはいずれ紹介したいと思っている。

（※1）郵政博物館論文「日本における近代郵便の成立過程―公用通信インフラによる郵便ネットワークの形成―」井上卓朗

（※2）当時の慣習で九十六文＝百文として計算していた。こよりとじの1銭の固まりが96枚であっても100枚＝百文として通用した。

（※3）他に現在の上京区域では、油小路元誓願寺下ル町西村卯兵衛、上立賣小川東入谷利兵衛、下立賣千本東へ入澤田茂兵衛、一條松屋町西へ入八島新助、西堀川上長者町下ル田川四郎兵衛、室町上長者町下ル敷内與七、油小路中立賣下ル西村七三郎、一條新町西へ入伊藤半兵衛、西堀川丸太町下ル宇野定七、出水黒門角上坂庄次郎、室町丸太町上ル木村萬平、出町今出川上ル町伊藤半兵衛などの名前が記録されている。

参考文献

「京都府百年の資料」七建設交通通信編
「ジャパンスタンブオークション」誌181号
「JPSオークション」誌532号

（福井 和雄）

京都市指定



水を大切に・・・（24時間・年中無休）
水道・下水道修繕工事（空調）・井戸ポンプ設備・建物リフォーム

大西工業株式会社

〒602-8072 京・上京区中長者町通新町西入 TEL.(075)451-3123 FAX.(075)432-2874

0120-350672

消 防 設 備 全 般

「みんなで花を咲かそう」 活動ボランティア募集

上京区総合庁舎前の花壇は、ボランティアの皆さんに、毎日水やりや手入れをしていただいています。また、年に2回、季節の花々に植え替える「一斉植替え」を行っています。11月には、お揃いのエプロンを着用しビオラに植替えを行いました。

興味をお持ちの方は電話、FAX又は、窓口(1階①番窓口)にてお申込みください。

対象:区内在住の18歳以上の方(高校生除く)

問合せ:上京区役所地域力推進室(まちづくり推進担当)

TEL 075-441-5040 FAX 075-441-2895



※撮影時のみマスクを外しています。

京都市歴史資料館 開館40周年記念特別展

「歴史資料館がある場所―御所の東の今と昔―」

◎会期(予定)

前期:令和4年6月4日(土)～8月14日(日)

後期:令和4年8月20日(土)～10月23日(日)

◎展示内容

御所の東南にある歴史資料館の周辺地域は、平安京の時代から明治時代に至るまで、幾度となく京都の歴史上でも注目を集める場所でした。

開館40周年を記念して、歴史資料館を含む「御所の東」の歴史について、館蔵資料や各遺跡からの出土遺物をもとに、平安時代から現代までをご紹介します。

表紙写真

妙覚寺(京都市上京区上御霊前通小川東入下清蔵口町135(新町通鞍馬口下ル)):桜
撮影:写真家 水野克比古氏

妙覚寺は室町時代、1378(永和4)年に四条大宮に創建。1483(文明15)年には足利義尚の命により二条衣棚に移転し、戦国時代は妙顯寺と同様に大規模な敷地をもっていました。国宝「洛中洛外図屏風」にもその広大な建物が描かれています。信長の時代までは13代将軍足利義輝、織田信長、伊達政宗など様々な人物の宿所になっており、千利休による茶会も開かれておりました。中でも織田信長の一番の定宿であり、信長が京都に来た20数回のうち18回の宿泊をここ妙覚寺でしています。信長のイメージである本能寺には実は3回しか宿泊していません。その3回目には本能寺の変が起こったのです。本能寺の変の際、妙覚寺には信長の長男信忠が宿泊していました。1583(天正11)年に豊臣秀吉の洛中整理命により現在地へ移転。現在も国指定重要文化財の孟蘭盆御書や、狩野派が屏絵を手がけた華芳堂(京都府指定有形文化財)、趣の異なる3つの庭園、さらに2019(令和元)年、重要文化財に指定された木造日蓮坐像など数々の見どころがあります。

【広告主募集中】本誌に広告を掲載しませんか？

「上京-史蹟と文化」に有料広告の掲載を希望する広告主を募集します。商品のPRや企業のイメージアップに、ぜひご検討ください。

問合せ:上京区役所地域力推進室(まちづくり推進担当) TEL 075-441-5040 FAX 075-441-2895

元祖

畑かき

京・上御霊前烏丸西
☎075・441・0610(代)

ぼたん鍋と京料理

www.toraya-group.co.jp

京都に生まれて五世紀

売買や相続、建築・リフォーム、残置処分にいたるまで

住まいにまつわるお困りごとはお任せください。

寺社仏閣の借地管理等で培った豊富な経験でお手伝いいたします。



いにしえの町を、想う。

玄武管財

602-0898 京都市上京区相国寺門前町647番地1

☎ 075-411-1214

info@kyoto-genbu.co.jp http://kyoto-genbu.co.jp/



「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。(TEL 441-5040)



- 神学部
- 文学部
- 社会学部
- 法学部
- 経済学部
- 商学部
- 政策学部
- 文化情報学部
- 理工学部
- 生命医科学部
- スポーツ健康学部
- 心理学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- グローバル地域文化学部



同志社大学

Doshisha University
https://www.doshisha.ac.jp



お問合せ先 同志社大学 広報部 広報課 TEL : (075) 251-3120



京都人さえもが恋するホテル。

BRIGHTON
KYOTO

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411（代）FAX.075-431-2360
https://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/

(東洞院通)

大丸さん北隣のよろず屋 四条店では

時計・貴金属

高価買取実施中!

鑑定書なしでも高額査定!

グループ創業70年の信用と安心

ブランド品 販売・買取 (株)よろず屋

京都府公安委員会許可 古物商 第11061号

本 店 地下鉄「今出川駅(6番出口)」隣 0120-25-0700
TEL 10:00~19:00 [土曜は18:00迄] 土日曜・祝日 10台有

四条店 地下鉄「四条駅(20番出口)」すぐ TEL 075-241-7900
TEL 10:00~19:00 大丸京都店 北隣(東洞院通) 年中無休

●FGA(英国宝石学協会)認定資格者がおります。●公共機関の鑑定士もつとめています。

「たのんでよかった!」
皆様のそのひとことを目指した
住まいづくりを心がけております。



西陣の大工さん

みずほ工務店

TEL.075-204-8283

http://www.mizuho-koumu.com

京都市上京区上立売通浄福寺西入上る真倉町752

本
田
味噌
本店

http://www.honda-miso.co.jp



西京白味噌®



山田松香木店

香木・薫香・匂香

〒602-8014
京都府京都市上京区勘解由小路町164
(室町通下立売上り)
TEL (075) 441-4694
FAX (075) 441-1124



MALEBRANCHE
京都 北山

洋菓子

マルブランシュ 京都 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北山門前
TEL (075) 722-3399・FAX (075) 702-9440
9:00AM-6:00PM 年中無休 (喫茶10:00AM-6:00PM)
www.malebranche.co.jp

商品予約専用フリーダイヤル ☎ 0120-668-399

単なるデリバリーカンパニーでなく、
人や企業の信頼を結ぶ**運送会社**です
どんな内容もまずご相談を!

商品のお預かりから梱包作業、配送まで

封入作業・ダイレクトメール(DM)配送・郵便出荷代行

機密書類の溶解処理

ルート配送・チャーター便(軽貨物～4t車まで)

引越サービス



近運貨二第186号(社)京都府トラック協会会員

株式会社 デリバリーサービス

〒604-0907 京都市中京区河原町通竹屋町上ル大文字町238番地

TEL(075)662-8255 / FAX(075)662-8257
https://delivery-service.jp/

